

第1回フリースクール等こどもの居場所づくり支援検討会（要旨）主な意見

1 フリースクール等こどもの居場所等の役割と現状

- ・ フリースクール等こどもの居場所は不登校児童生徒の重要な受け皿となっており、今や欠かせない存在となっている。一方で、運営はボランティアに依存している施設も多く、継続的な運営が課題である。

2 多様な居場所の必要性

- ・ 不登校支援は学校かフリースクール等こどもの居場所かの二択ではなく、こども食堂や地域の居場所なども含めた多様な選択肢が必要である。
- ・ こどもの状態に応じて、居場所・フリースクール等こどもの居場所・学校を行き来できる「グラデーション」のある支援が重要である。
- ・ こどもが安心して過ごせる居場所を地域の中で保障する視点が必要である。また、こどもも状態により必要とする居場所が変化する。

3 運営上の課題

- ・ 発達特性や支援ニーズが多様化しており、環境整備や職員配置に多くの負担が生じている。出席認定や補助制度の運用について、事務負担も課題。

4 学校との連携

- ・ 学校も不登校支援に懸命に取り組んでいるが、現在の制度では対応に限界がある。民間の居場所と学校が「こどもを共に育む」という視点を共有することが重要。出席認定や情報共有について、連携の充実が求められる。

5 福祉的支援との連携

- ・ 不登校の背景には発達特性、家庭環境、生活困窮、保護者の心身の不調など複合的な要因がある。学校やフリースクール等こどもの居場所だけでは解決できないケースも多く、福祉や地域との連携が不可欠である。

6 当事者の声

- ・ 居場所では話す機会が得られたことが大きな支えとなった。自宅から近い場所に居場所があることが重要である。学校との連携は、場合によっては抵抗感もある。学校的な雰囲気強い施設よりも、より緩やかな居場所を求める場合もある。

今後の検討に向けた主な論点

1. 地域における多様な居場所の確保
2. 学校・福祉・地域との連携強化
3. 出席認定や補助制度の運用改善
4. 発達特性等、多様なニーズへの対応
5. 当事者の声を踏まえた支援体制の構築